

第2520地区

 2017~2018

ひろがれ
 まわれ
 一つ心に

MORIOKA
 ROTARY CLUB WEEKLY

第27回例会(2月23日)
 平成30年3月1日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
 川徳デパート内
 例会場 同上 TEL 019(651)1111(代)
 例会日 毎週金曜日12時30分～
 http://www.morioka-rc.jp/

会長 飯塚 肇
 幹事 星 克彦
 会報 伴 亨
 クラブ事務局 TEL 019(653)5682
 FAX 019(653)5622

RI会長テーマ ROTARY: MAKING A DIFFERENCE. 'ロータリー:変化をもたらす'... イアン H.S. ライスリー
 盛岡RC会長テーマ — もう一度、奉仕 —... 飯塚 肇

4 創立記念例会卓話



『創立記念日のこと』

(株)大観 代表取締役会長
 佐藤 義正 君

今日は盛岡ロータリークラブの創立記念日です。79年前の昭和14年2月23日に国内34番目として誕生しました。産声を上げた場所は、この公会堂です。

更に、今日はロータリークラブがシカゴに初めて誕生した日です。それは1905年の今日です。明治38年のことで、私の父は、「ロータリーは私と同じ年だ」と言っていたものでした。

この時代のことと言えば、ロータリー誕生2年前の1903年12月10日付のニューヨーク・タイムズの社説で『最近、イカサの夢を見て、空を飛ばうとする者がいるが、そんな無駄なことは止めた方がいい』と言っていたそうですが、その一週間後にライト兄弟は空を飛んでみんなはびっくりしてしまいました。

「立派な規制や規約だけでは、今日のロータリーはありえなかったろう。最初に2~3人の人が、ポール・ハリスに声を掛けられ、その心に共鳴した人々が、こだまのごとく反応し合った結果だろう」と言われています。ロータリーは次第に拡がって、1919年にはヨーロッパ最初のクラブがスペインのマドリッドに、1921年にはアフリカで、南アのヨハネスブルグ、オーストラリアでメルボルンに、日本で東京に、それぞれ誕生しました。

最初のシカゴクラブから16年後のことです。今から97年前になります。

東京のあと、2年後には大阪、3年後には名古屋、神戸、京都と続き、23番目に東北初めての郡山クラブが誕生しました。

仙台は27番目で、我が盛岡クラブは34番目、

東北では3番目でした。初代の会長は岩手殖産銀行頭取板井賛次郎さんでした。

盛岡クラブ設立は最初のシカゴから数えて34年後、東京クラブ設立から18年後にあたり、今から79年前の昭和14年の丁度、今日です。スポンサークラブは、東京クラブと仙台クラブでした。盛岡のあとは、熊本、新潟と続いています。

盛岡クラブ誕生に際しては、当時、東京クラブの会員であった、盛岡出身の鹿島組社長鹿島精一さんと東北振興繊維副総裁金森太郎さんの熱心な薦めがあったからだ聞いています。

私が若いころの話ですが、北海道東北開発公庫という政策金融の機関があり、その東北支店長さんに金森さんという方がいらっしゃいました。話をしているうちに、その方は盛岡出身で、その方の弟さんは私の妹と付属中学で同級生だったことも伺いましたので、もしやこの金森さんのお身内ではなかったのかなと、今、考えたりしています。しかしそれは良く分かりません。

設立時のチャーター・メンバーは15名の方で、お配りした資料の①の方々です。村井源一さんは会員村井研一郎さんのお父上です。池野権治さんは以前に会員であった池野亮一さんのお父上で、川村英三さんは、私が存じ上げたところは川徳さんの総務専務さんをしていました。

佐々木休次郎さんは、旧太田村にあった宰郷家という屋号の、県内屈指の大地主のご当主でした。宰郷家は私の生家の佐藤家とは親せきです。私の家は母の代まで三代続けて、女の子、一人だけだったので、私の父まで、三代続けて婿養子を迎え

ました。

私の祖父はその太田村屈指の旧家で、現在の当主は33代目ですが、屋号は八ツ口という熊谷家から来ています。

この宰郷家と、私の生家の佐藤家はともに八ツ口とは深いつながりの有る親せきなので、八ツ口を中心として、宰郷家と佐藤家は親せきになっています。

休次郎さんは、春・秋のお彼岸やお盆の時には、私の生家まで仏を拝みにおいでになりました。私が仏間の廊下でうろちょろしていると、障子をあけて廊下に出て来られてお札を頂戴したことがあります。私はお札というものを初めて手にしたのですが、お帰りになった後、母親に預けてしまいました。

「太田村誌」には「宰郷家の当主として、また岩手産業組合連合会長として、活躍。資性温厚にして態度謹厳、接するものすべて氏に傾倒せざるものなき大人格者」と記されています。

大素封家の立派なご当主だった休次郎さんは、ご多忙の合間に趣味を良くされ、太田クアルテットを結成して自らもバイオリンを弾き、夜になると盛岡駅近辺の街の灯が見える、見晴らしの良い洋間でお仲間と練習に励んでおられたとのことでした。

スポーツは、テニスの他に、敷地の一角にリンクを作って、冬には天然氷でフィギュア・スケートの練習もやっておられたとのことでした。

宰郷家の高い堀を張り巡らした広大なお屋敷の一角の、大きな池で錦鯉を飼っていましたが、その稚魚を狙って、カワセミというきれいな鳥が池の廻りを飛びまわっていました。母が宰郷さんに行くときは、その鳥を見たさに、弟がいつもくっついて行きましたので、私の訪問機会はほとんどありませんでした。

休次郎さんは、1942年（昭和17年）からロータリー解散中の木曜会の会長を勤めて、昭和19年2月に逝去されました。産米改良、山林事業などに多大の功績を残され、慈善事業公共事業には私材を投じられたという立派な方でありました。

この伝説の方を知っているのは、今は私ぐらいかなと思いますが、端正で立派なお顔の方で、お孫さんの福田荘介さんと熊谷祐三さんはとても良く似ておられます。

次に、資料②を見ていただきたいのですが、内地37、外地11クラブの設立順の名簿です。外地のクラブを入れると盛岡クラブは、34番目では

なく45番目の設立になってしまいます。それは、7番目に当時、朝鮮の京城、8番目に満州の大連、9番目に同奉天、そして哈爾濱と続き、11番目には台湾の台北クラブが設立されているからです。いち早く外地の都市にクラブを設立していたことから、我が国の占領統治の政策をうかがい知ることが出来ます。

こうして、太平洋戦争開戦前夜、盛岡クラブは、僅か15名の日本最小クラブとして誕生したのですが、時代はすでに戦時下でした。

ロータリーそのものは敵性語であり、アメリカ生まれのクラブは、翌15年秋、設立後1年7か月で自主解散に追い込まれてしまいました。

その後は、木曜会と改称して例会を続けましたが、1945年に終戦を迎えることとなりました。

終戦から、5年後の1950年（昭和25年）に盛岡ロータリークラブは第2次正式認証を受けて、再スタートを切りました。

この時のチャーター・メンバーとして、第44代南部家ご当主、南部利英様が入会されました。

1960年（昭和35年）には会長をなさいましたが、南部さんのご趣味はスポーツで、スキー、水泳も良くされ、特にゴルフはプロ直伝の腕前で、内丸の料亭「花芳久」に設けられた練習場では、会員に手ほどきをされていたとのこと、ゴルフは盛岡クラブ会員の名士の方々から、市内、県内に広まっていったそうです。

国際ロータリーに復帰した当時の会員数は21名で、それから15年後の昭和40年には、71名まで増強されました。

私は、その当時が盛岡クラブに最も勢いのあったころだと思っています。

佐藤武夫さん、村井源一さんが地区ガバナーに選出され、又その方たちが中心となり、多くのクラブ設立のスポンサーになりました。

昭和27年の釜石クラブをはじめとして、花巻、青森、八戸、盛岡北、宮古、一関、北上、水沢、大船渡、福岡、岩谷堂、陸前高田、久慈の14クラブを短時間で誕生させました。

私の父は、1960年（昭和35年）入会をさせていただいています。

昭和30年代に入り、全国的に町村合併が盛んになり、昭和33年につなぎ温泉が所在する岩手郡御所村は隣の太田村と共に盛岡市に併合されました。その時の最後の太田村村長も、旧家八ツ口のご当主でした。この合併を機に、岩手銀行の安孫子副頭取さんが父のところまでおいでになり、

入会をお薦めいただいたと聞いています。

私が入会させていただいたのは、1974年（昭和49年）7月26日です。私の父の入会から14年後のことでした。

私が入会した時の1974～1975年の会長は荻野勤治先生でした。現会員荻野忠良先生のお父上でいらっしやいます。

私を紹介して下さったのは、SAAをしておられた、(株)小田喜の小田喜六さんでした。この方は、盛岡JCのOBの皆さんの大先輩の親分肌の方で、ガバナー訪問の際の夜の懇親会のざわつく酒席で、遠くから、「おい、ガバナー君」と呼び掛けていたことが、私の記憶に残っています。

例会場は肴町にあった旧川徳本店のホールでした。場所は現在のナナックです。

入会初日のことは、良く覚えています。歴代の商工会議所の会頭さんや岩手医大の三田先生、岩手銀行の雫石頭取さんなど、いつもお名前を聞く方が真ん中の席を陣取っておられて、その席に座って昼食をいただいた時は、本当に緊張をしておりました。

他に、佐藤重昭さんのおじいさんの佐藤武夫パストガバナー、平井滋会員のお父上の平井冽会員、千葉隆史会員のお父上の千葉信先生もいらっしやいました。村井源一パストガバナーは少し前に退会されていました。

私の入会当時は、昭和生まれの会員は少数派でした。

そこで昭和生まれの人たちの親睦会が出来ていて、年に何回かは、夜の懇親会をやっていました。

会長は現在の岩手県医師会長の石川育成さんでしたが、とても楽しい会でした。そのうちに昭和生まれの会員も次第に増えてきましたので、村井研一郎さんのご意向を受けて、私が石川会長にお話しをして、みんなの相談のもと、昭和会を解散することになりました。

私は入会して、すぐの年に親睦委員、翌年は副幹事をやりました。

入会3年後の1977～78年は、平井冽会長の下で幹事をやらせていただきました。

1991年には、あさ開さんの村井良一郎さんからバトンを受けて会長を勤めさせていただきました。

その時の副会長は岩手放送の河野逸平さん、次期会長は山口徳治郎さん、幹事は鍵屋の村井栄輔さんになっていただきました。

当時は、盛岡クラブがスポンサーとなって作ら

れた県内の多くの若々しいクラブが、会員を強化し、それぞれ活発に活動していた時代です。

例えば、盛岡北クラブが何年もの間、出席率100%を達成したとか、各クラブで、財団や米山奨学会への寄付金が多く集まっていました。

更には、県内のいくつかのクラブからガバナーが輩出されました。

新興クラブ出身のガバナー訪問の折に、当クラブの出席率の低さを何度か指摘されたこともあります。

そんなこともあり、1997年～1998年度の若松会長から、出席委員長になってほしいとの要請がありました。「しっかり、やってもいいか。」と言いましたら、「いいから、頼む」と言われ、引き受けました。結局、その年は93.09%と飛躍的に伸びてしまいました。そしたら、次年度の会長予定者の澤野先生からも早々と要請があり、結局二年続けて出席委員長を引き受け、澤野年度でも95.24%と更に伸ばすことが出来ました。

どうやったのかと聞かれても、私は特別のことはやりませんでした。会員から、嫌われたり、恨まれたこともなかったような気がします。

うまくいった原因を一つだけ言えば、それは、出席委員会の仲間が絶えず寄り集まって、ワイワイガヤガヤと騒いでいたことです。

飲み会とチームワークの勝利だと思っています。

創立60周年記念誌「ビッグ・フライデー」に、1989年～1998年、多彩に充実の10年とあり、南部ガバナーのリーダーシップが遺憾なく発揮された結果で、例会出席はその後2年を経て90%台となった。これまでに無いことで、むしろ会員のほとんどが予想もしなかったことかもしれない。

「やれば出来る」出席委員長を務めた佐藤義正会員の、この言葉は重い。と書いてありますが、これは私の言葉ではありません。

山口編纂委員長の、私に対する激励と受け止めています。

ガバナーとして、南部家第45代当主南部利沼会員が立派にお勤めになり、それからあまり間を置かずに、当クラブは小川ガバナーを輩出し、一層の盛り上がりを見せ、2520地区の中心的なクラブの一つとして発展を続けてきました。

当クラブの出席率の現状を申し上げますと③の資料にあるとおり、直近10年間の平均は80.48%です。

本年度12月現在では75.85%になっています。会員の皆さんには、頑張ってください。

が、あと10%程度の上乗せをして、85%台になればいいと考えています。

例会に出席することの第一の意味は、自分の限られた職業生活の中では得られない、多くの違った業種の優れた指導者たちと知り合いになることです。

そして、そこからインスピレーションを受けて、自分自身が成長することにあります。更に、全ての会員が例会に出席することによって、他のロータリアンにそれを与えなければなりません。

ロータリーの会合で得たものを持ち帰って、自身の業界に与える。

一業一人の会員制度のロータリーとしては、自分の職業を通して社会に奉仕するというのを、とりわけ中心課題に置いているという意味では、出席をすることにこそ、意味があると言わざるを得ません。

私は、例会への出席や地区大会へ参加した機会に、多くの人と出会うという幸運に恵まれました。

例えば、1995~96年度の南部利昭ガバナーの時の地区大会の際に、私は妻と二人で、RI会長代理のエイド（付き人）を勤めました。この代理の方は、札幌西クラブの竹山涼一パストガバナーでした。私どもは任務を無事勤め終えて、花巻空港でお別れする時に、竹山さんご自身が翻訳されたポール・ハリスの「わがロータリーへの道」という著書をいただきました。

これを読ませていただいて、ポール・ハリスのお人柄が良く分かるようになりました。

また、これより先、盛岡北の田口良一ガバナーの時の地区大会の時の会長代理としておいでになった札幌クラブの伊藤義郎パストガバナーのエ

イドを勤めました。

この方は、全日本スキー連盟の会長さんでした。この方とのご縁も暫く続きました。

1993年の2月に世界アルペン・スキー大会が雫石で開催されましたが、私はその大会の組織委員会の委員を命ぜられ、直前大会の開催地ザールバッハに、視察団の団長として岩手県や雫石町の関係者と一緒に行きました。

その開会式に、VIP席に通され、大会コンパニオンからひざ掛けなどをかけてもらい、気分が高揚していた時に、ふと横を見たら、トニー・ザイラーや猪谷千春さんたちと一緒に、伊藤パストガバナーが国際スキー連盟副会長の立場でお座りになっていました。

丁度、その年はモーツァルト没後300年の年にあたり、一年間ザルツブルクのどこかで、365日、毎日、モーツァルトの演奏会をやっており、その入場券を手に入れることとか、いろいろとお世話になってしまいました。

私は、ロータリーとは多様な業種の人と名刺を交換できる素晴らしい会で、片肘を張らない社交クラブだと、思っています。

会員はいろんなクラブに出席して、素晴らしい人と出会う権利を有しています。この権利をもっともって行使するべきだと思います。

会合がお昼時になっているのも、とても便利です。愈々、次年度の2520地区は田中堯史ガバナーの年度です。

盛岡クラブ創立80周年を迎えるにふさわしく、活気と風格のあるクラブとして、益々発展することを祈念して終わります。



例会報告

第27回例会
平成30年2月23日(金)

12時30分 開会点鐘

- ・司会 飯塚 肇会長
- ・ロータリーソング 手に手つないで
- ・ビジター 樋山 桂さん(会友)、

南部利文さん(会友)

- ・会長報告 飯塚 肇会長
- ・新入会員紹介 片桐宗雄会員(日本銀行盛岡事務所 事務所長)
紹介者: 川村勝浩 会員
- ・幹事報告 星 克彦幹事

他クラブ例会変更のお知らせ

- 盛岡北R.C.= 3月14日(木)は、「春

の夜例会」のため夜例会に時間変更

●メイクアップ

東京池袋R.C.=橋本君。水沢東R.C.=長澤君。盛岡南R.C.=伴君。クラブ委員会=千葉・藤村(文)・藤村(吉)・福井・星・岩野・勝部・丸山・長野・坂本・米内・吉田(育)君。

出席報告

会員数/76名

出席数/55名

出席率/74.67%

前々回/75.34%

プログラムのお知らせ

- ・3月 1日(休) 会員卓話(夜例会) 金子真也会員
- 9日(金) 会員卓話 熊谷隆司会員
- 16日(金) 環境保全ポスター表彰式
- 23日(金) 特別休会
- 30日(金) 会員卓話 阿部 広会員



●本号編集担当/町 整